

八重山語の韻律体系

セリック・ケナン(国立国語研究所)

令和5年度

第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会

2024年3月17日(NINJAL・オンライン)

0. 要旨

- 本発表では、南琉球八重山語の韻律体系に関する最新の研究および調査の結果をまとめ、方言間のバリエーションの類型化を試みる



0. 要旨

□ 八重山語の韻律体系

□ コア (“Southern Ryukyuan Prosodic Core”)

- ピッチ変動の有無と位置(1か2)によって対立する三型ア体系
- 数えの単位: 音節より上位、文節下位の韻律単位



0. 要旨

□ 八重山語の韻律体系

□ コア (“Southern Ryukyuan Prosodic Core”)

- ピッチ変動の有無と位置(1か2)によって対立する三型ア体系
- 数えの単位: 音節より上位、文節下位の韻律単位

□ 方言間のバリエーション

- ピッチ変動方向(上昇・下降)
- 数えの単位内のピッチ変動実現位置(次末TBUか末尾TBU)
- b型の中和(A/BC、AB/C、A/BC・AB/C)
- 語の長さによるアクセント型の偏り
- a型の実現
- 声調発生の有無



0. 要旨

□ 八重山語の韻律体系

体系の例: 宮良方言

	a型・「宮古」	b型・「沖縄」	c型・「多良間」
「X...」	(mee]gu) ...	(ukinaa) ...	(tarama) ...
「Xへ...」	(mee]gu)=(gee)	(ukinaa)=(gee) ...	(tarama])=(gee) ...
「Xから...」	(mee]gu)=(gara)	(ukinaa)=(gara) ...	(tarama])=(gara) ...
「X+言葉は...」	(mee]gu)+(muni=ja) ...	(ukinaa)+(muni=ja) ...	(tarama])+(muni=ja) ...
「X+言葉から...」	(mee]gu)+(muni)=(gara) ...	(ukinaa)+(muni])=(gara) ...	(tarama])+(muni)=(gara) ...



0. 発表の流れ

1. 背景と問題提起
2. 調査データ
3. 八重山語の韻律体系

0. 発表で使う記号

● 韻律に関する記号

[上昇、語頭は、高始まり

] 下降、語頭は、低始まり

% 半上昇

! 半下降

() 韻律語境界

... 接続形(梓文が続くこと)

● 形態論に関する記号

= 接語境界

+ 複合語境界

1. 背景と問題提起

□ 南琉球の韻律体系に関する研究の動向

□ 平山ら(1964～1967)

- 伝統的概念/方法:「拍」、「文節」、「金田一語彙(類)」

□ 空白時代(1967～2010)(※ほぼ空白)

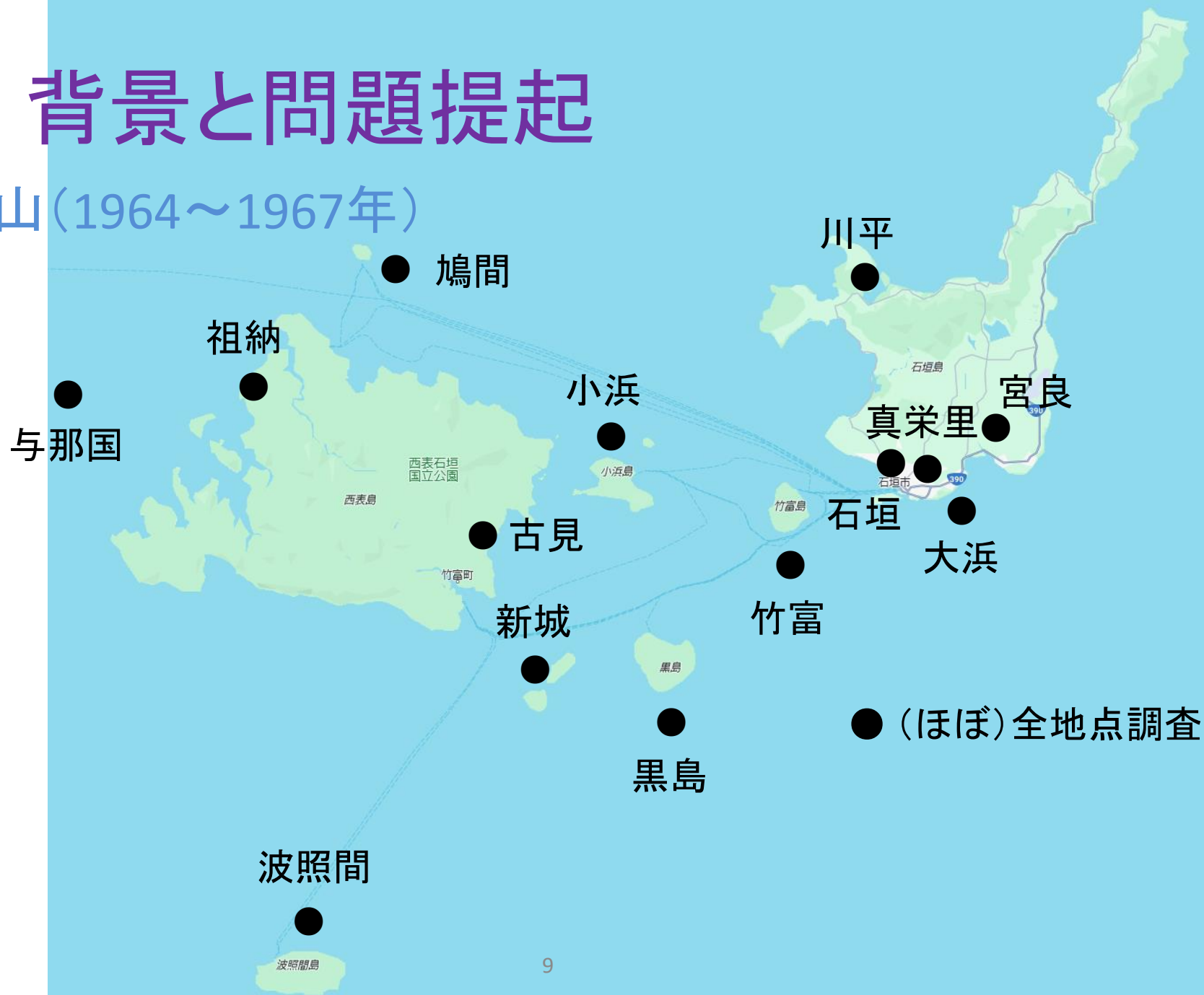
□ 松森ら(2010～現在)

- 特化した枠組・方法:「韻律語」、「中和」、「系列」、「五十嵐語彙」

※久野(1990)とローレンス(1997a, b)の研究が例外であるが、方法は平山と同じく、結果、体系の「見直し」には至らなかった。ただし、記述が極めて詳細なローレンス(1997a)には、鳩間方言の三型の仄めかしが含まれている

1. 背景と問題提起

平山(1964~1967年)



1. 背景と問題提起

平山(1964~1967年)



- ①: 一型
- ②: 二型
- ③: 三型

● (ほぼ)全地点調査

1. 背景と問題提起

平山(1964~1967年)

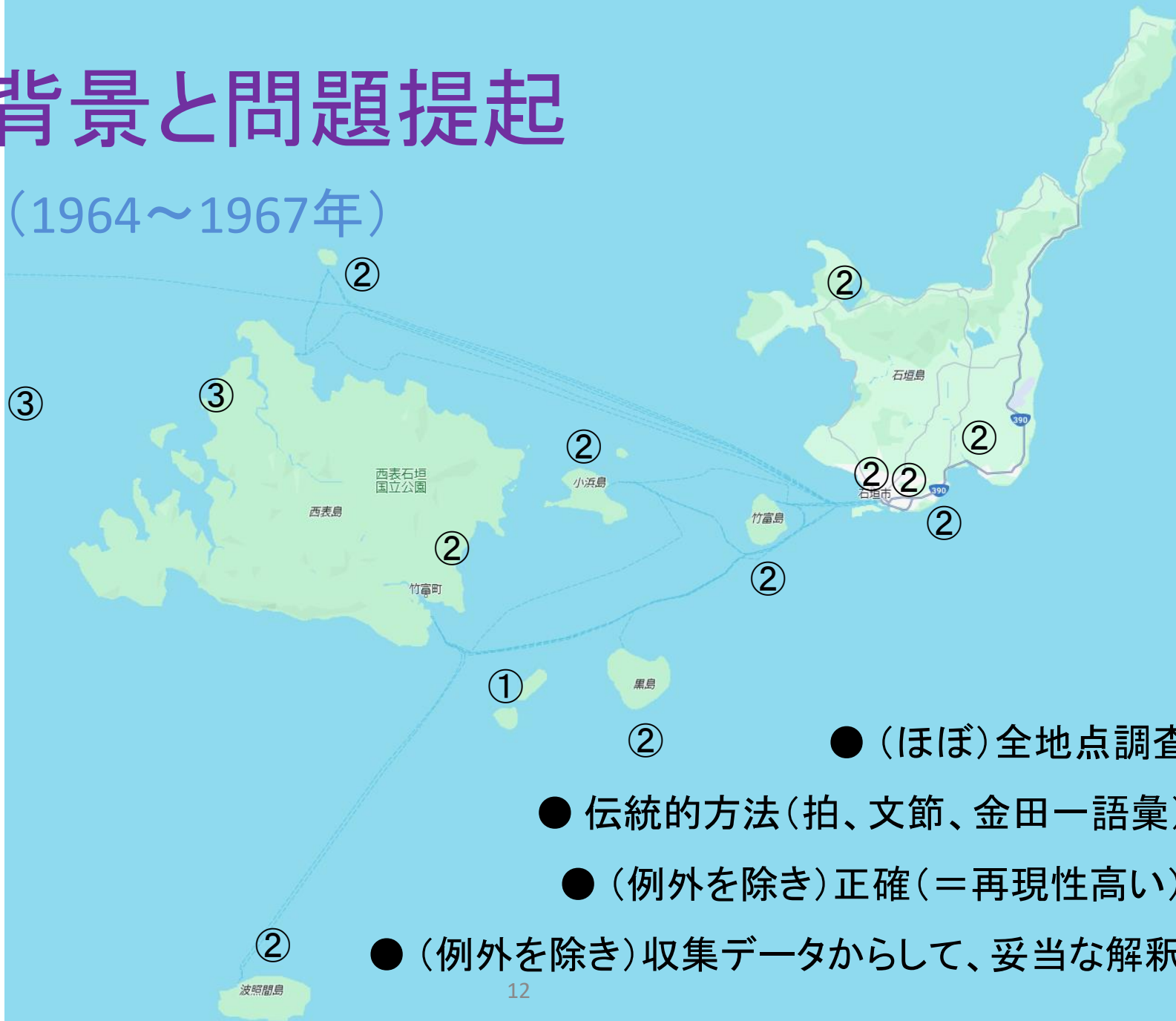


- ①: 一型
- ②: 二型
- ③: 三型

- (ほぼ)全地点調査
- 伝統的方法(拍、文節、金田一語彙)

1. 背景と問題提起

平山(1964~1967年)



- ①: 一型
- ②: 二型
- ③: 三型

- (ほぼ)全地点調査
- 伝統的方法(拍、文節、金田一語彙)
- (例外を除き)正確(=再現性高い)
- (例外を除き)収集データからして、妥当な解釈

1. 背景と問題提起

- 南琉球の韻律体系は本土の枠組みでは記述**できない**

1. 背景と問題提起

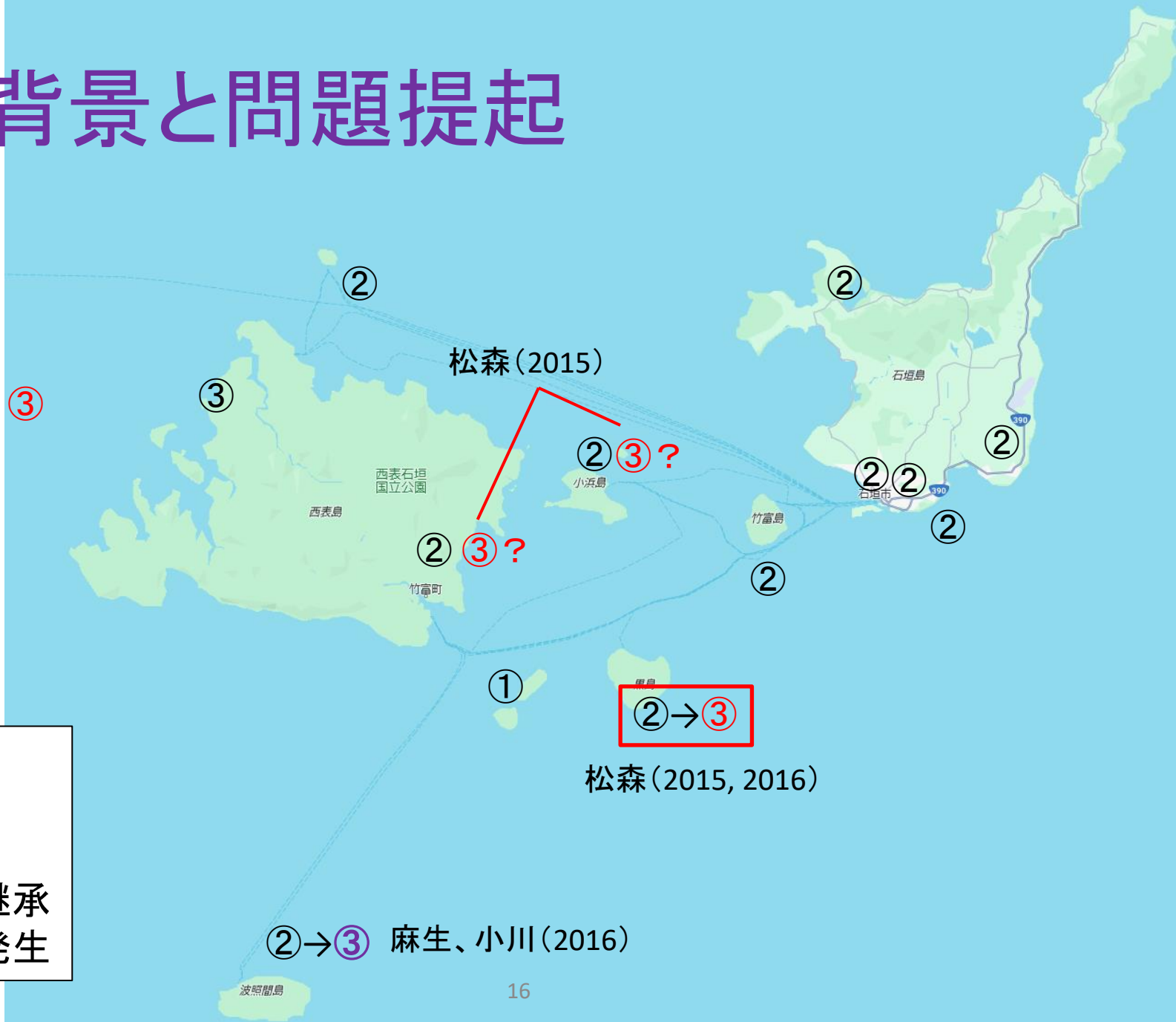
- 南琉球の韻律体系は本土の枠組みでは記述**できない**
 - 松森(2010)の発見
 - 宮古語多良間方言は2型ではなくて、3型である
その後、池間(五十嵐ら2012)、与那覇(松森2013)も3型であることが明らかに
- 共時体系を分析するための理論的枠組の一新
 - 「韻律語」の設定(五十嵐2015、五十嵐2016a)
 - 中和現象の整理(青井(2017)など)
 - => 適切な枠文の開発とその表層音調の解釈が可能になった
- 語彙の所属体系を調べるための枠組の整備
 - 系列(松森2000a,b)
 - 系列語彙(五十嵐2016b)
 - => 有効な調査票が初めて作成可能

1. 背景と問題提起

- 南琉球の韻律体系は本土の枠組みでは記述**できない**
- 松森(2015)
 - 八重山語は宮古語と同じ仕組みである、という仮説を提示

1. 背景と問題提起

2016年

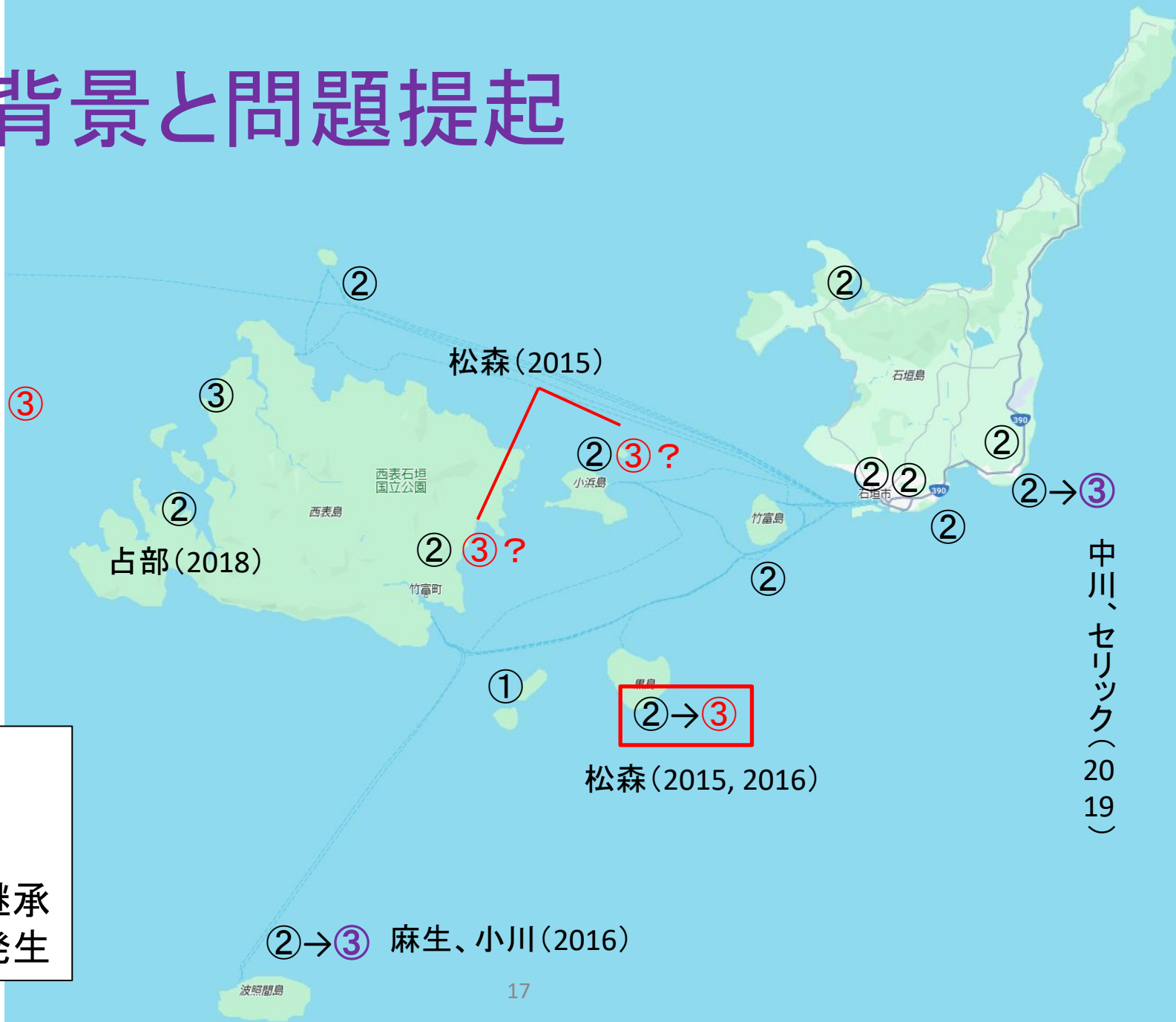


- ①: 一型
- ②: 二型
- ③: 三型
- : 祖語継承
- : 声調発生

②→③ 麻生、小川(2016)

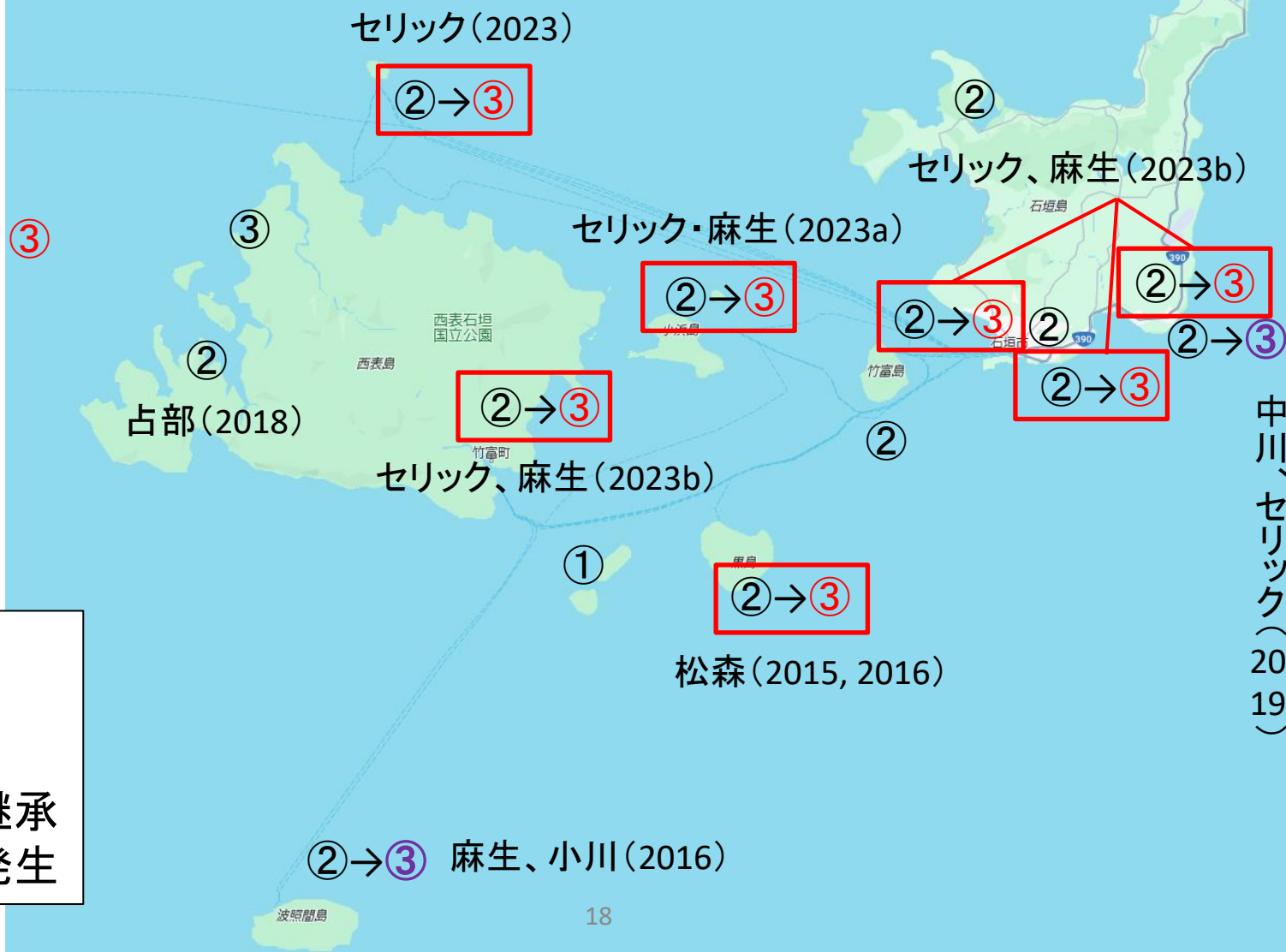
1. 背景と問題提起

2019年



1. 背景と問題提起

2023年



- ①: 一型
- ②: 二型
- ③: 三型
- 〇: 祖語継承
- 〇: 声調発生

1. 背景と問題提起

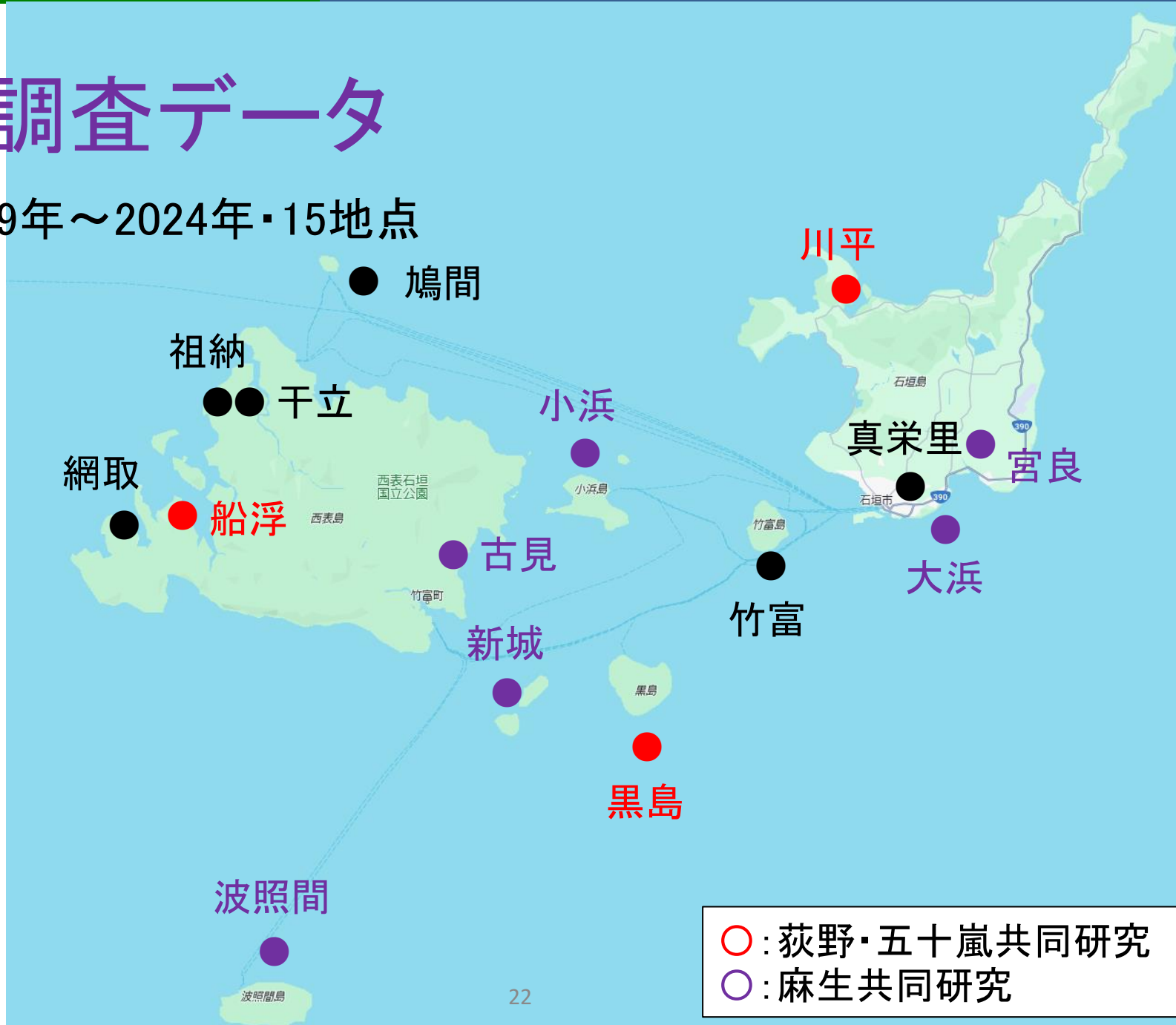
- 各方言のアクセント体系(対立数、音韻的解釈)を正しく捉えられているため、初めて比較可能

=> 問題提起

八重山語の韻律体系はどのような特徴を持ち、
方言間でどのようなバリエーションが見られるのか？

2. 調査データ

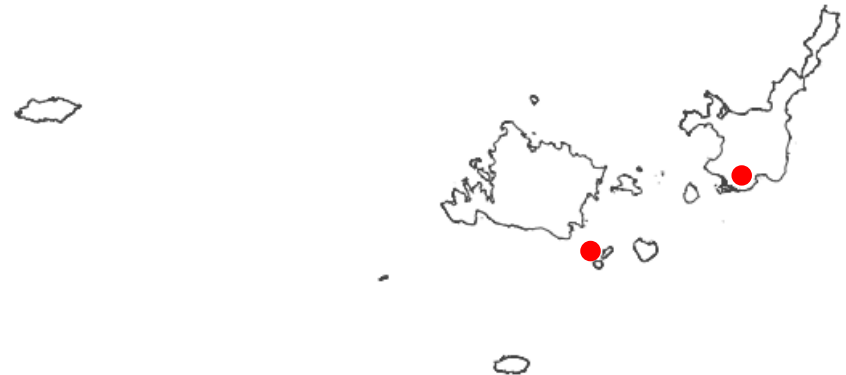
□ 2019年～2024年・15地点



3. 八重山語の韻律体系

- 新城、真栄里、平得は考察の対象から除く
 - ◆ 新城下地はアクセントの対立がない(上地は未詳)
 - ◆ 真栄里は分析中
 - ◆ 平得は未調査だが、平山ら(1967)ではアクセントの対立がない

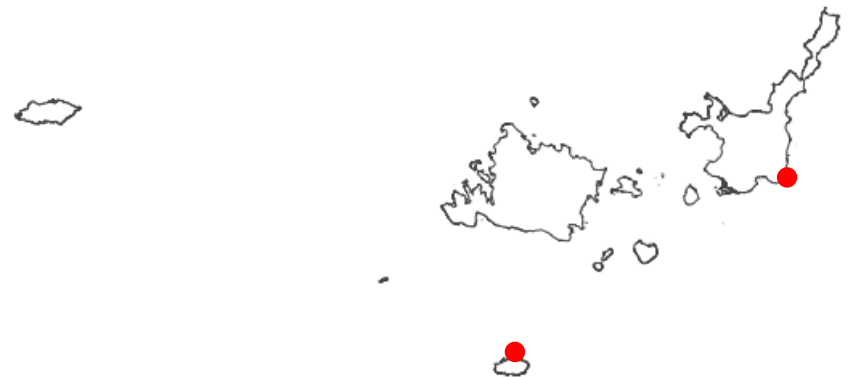
- 八重山語の韻律体系
 - 共通特徴
 - タイプを定義するバリエーション
 - その他のバリエーション
 - 与那国と波照間の位置付け



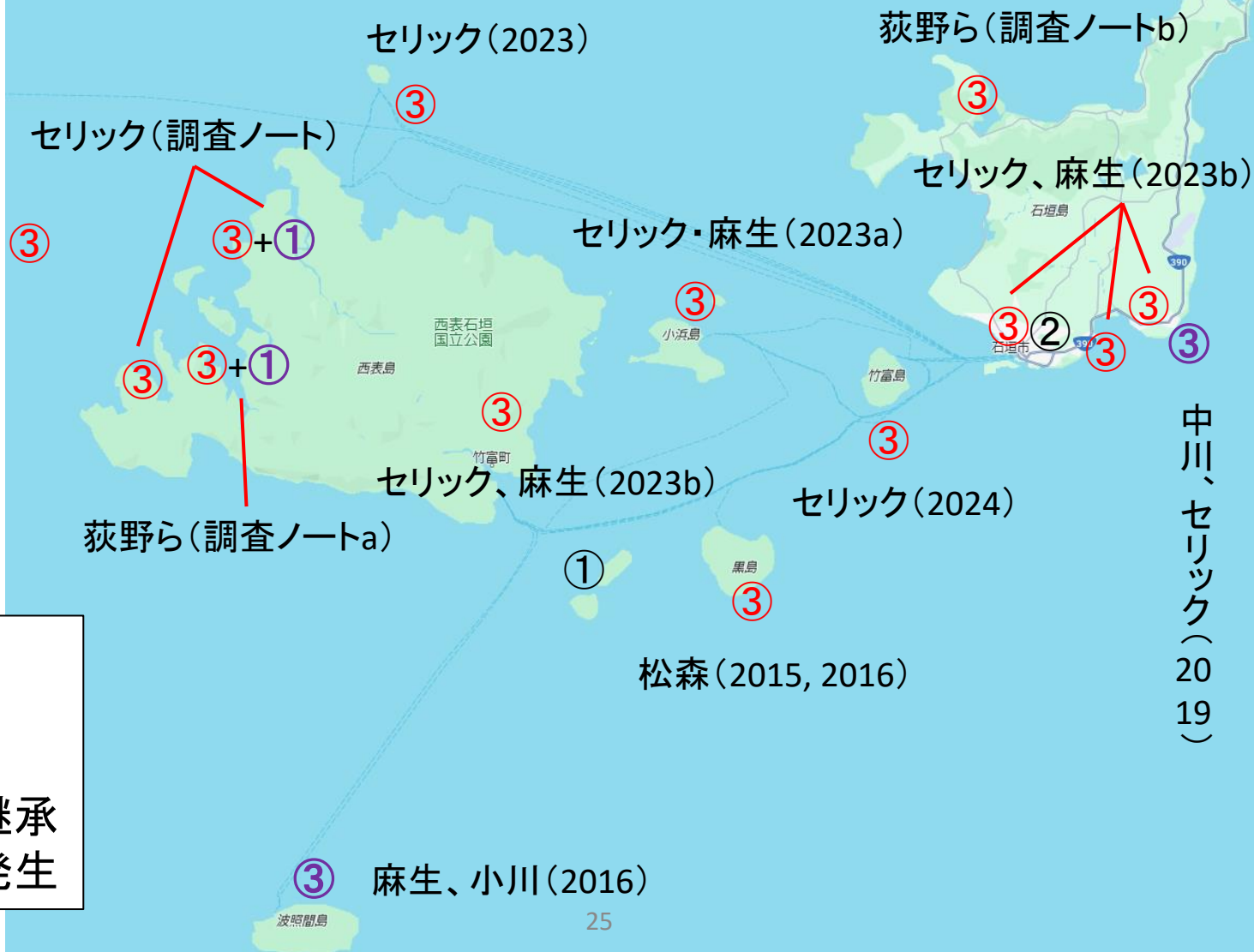
3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)



3.1 共通特徴



- ①: 一型
- ②: 二型
- ③: 三型
- : 祖語継承
- : 声調発生

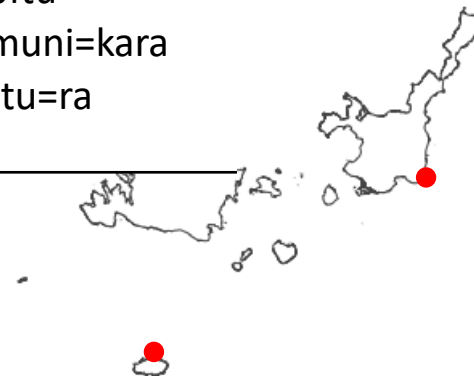
3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する

(波照間・白保は除くが、波照間は後述)

	a型	b型	c型
四箇	me:]ku+pitu	ja[matu+pitu	ujaki]+pitu
大浜	mjaa]ra+muni=fi	jamatu+muni]=fi	tarama]+muni=fi
宮良	mee]ra+muni=gara	jamadu+muni]=gara	tarama]+muni=gara
竹富	i[naka+hitu	ja[ma!tu+hitu	ta[ra!ma]+hitu
川平	i]naka+pitu	jamatu+pi[tu	tara[ma]+pitu
鳩間	i[naka+pusu	ja[matu]+pusu	ta[ra]ma+pusu
小浜	mee]ra+pitu	jamatu+pi[tu	tara[ma]+pitu
古見	[mija]ra+muni=kara	jama[tu+muni]=kara	ta[rama]+muni=kara
船浮	inaka+pitu=[ra	jamatu+pi[tu]=ra	kabi[ra]+pitu=ra
与那国	[inaga]damaTu	daguba]



3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する



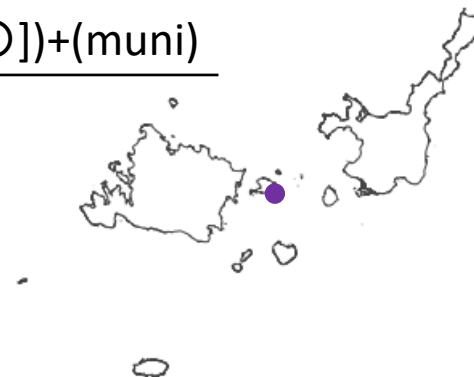
3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

小浜のアクセント体系

型	1PW		2PW	
a型	(○[○]○)	(○[○]○=nu)	(○[○]○)=(kara)	(○[○]○)+(muni)
b型	(○[○]○)	(○[○]○=nu)	(○○○)=(ka[ra)	(○○○)+(mu[ni)
c型	(○○[○])	(○○○=[nu)	(○○[○])=(kara)	(○○[○])+(muni)



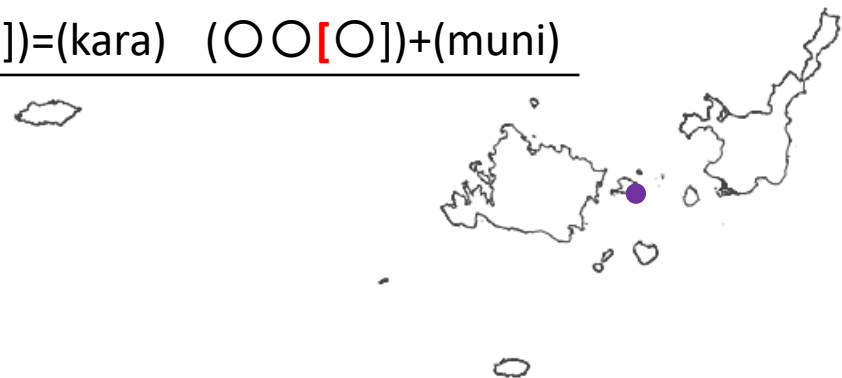
3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

小浜のアクセント体系

型	1PW		2PW	
a型	(○[○]○)	(○[○]○=nu)	(○[○]○)=(kara)	(○[○]○)+(muni)
b型	(○[○]○)	(○[○]○=nu)	(○○○)=(ka[ra])	(○○○)+(mu[ni])
c型	(○○[○])	(○○○=[nu])	(○○[○])=(kara)	(○○[○])+(muni)



3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

小浜のアクセント体系

型	1PW		2PW	
a型	(○[○]○)	(○[○]○=nu)	(○[○]○)=(kara)	(○[○]○)+(muni)
b型	(○[○]○)	(○[○]○=nu)	(○○○)=(ka[ra])	(○○○)+(mu[ni])
c型	(○○[○])	(○○○=[nu])	(○○[○])=(kara)	(○○[○])+(muni)

1. 接語により音調交替



3.1 共通特徴

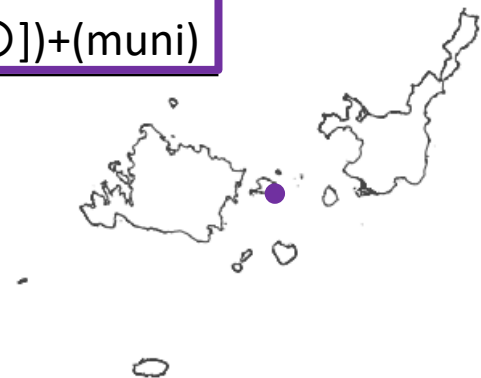
□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

小浜のアクセント体系

型	1PW	2PW
a型	(○[○]○) (○[○]○=nu)	(○[○]○)=(kara) (○[○]○)+(muni)
b型	(○[○]○) (○[○]○=nu)	(○○○)=(ka[ra]) (○○○)+(mu[ni])
c型	(○○[○]) (○○○=[nu])	(○○[○])=(kara) (○○[○])+(muni)

2. 単純名詞+長い接語は
複合語に準じる



3.1 共通特徴

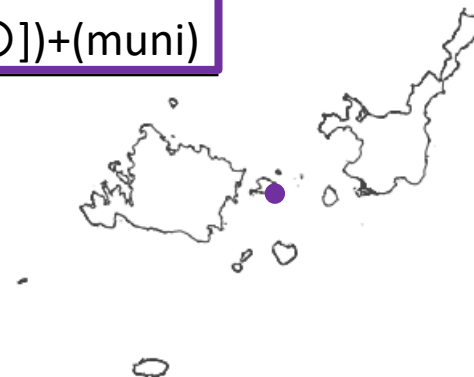
□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

小浜のアクセント体系

型	1PW	2PW
a型	(○[○]○) (○[○]○=nu)	(○[○]○)=(ra) (○[○]○)+(ni)
b型	(○[○]○) (○[○]○=nu)	(○○○)=(ka[ra]) (○○○)+(mu[ni])
c型	(○○[○]) (○○○=[nu])	(○○[○])=(kara) (○○[○])+(muni)

3. 位置による対立



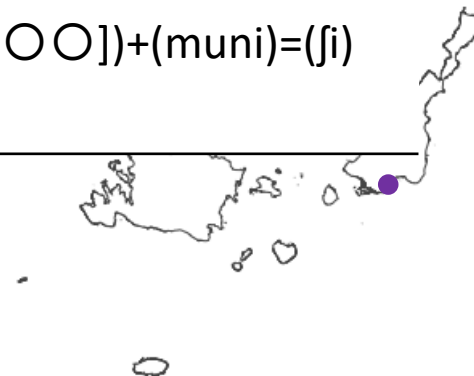
3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

大浜のアクセント体系

型	1PW	2PW	3PW
a型	(○○]○) (○○]○=nu)	(○○]○)=(kara)	(○○]○)+(muni)=(ji)
b型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○)=(kara)	(○○○)+(muni)=(ji)
c型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○])=(kara)	(○○○])+(muni)=(ji)
c型(複)		(○○○])+(muni)	



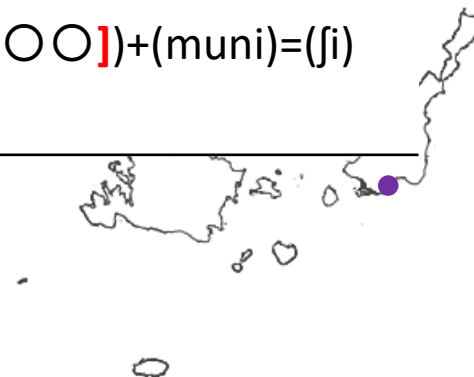
3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

大浜のアクセント体系

型	1PW	2PW	3PW
a型	(○○]○) (○○]○=nu)	(○○]○)=(kara)	(○○]○)+(muni)=(ji)
b型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○)=(kara)	(○○○)+(muni])=(ji)
c型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○])=(kara)	(○○○])+(muni)=(ji)
c型(複)		(○○○])+(muni)	



3.1 共通特徴

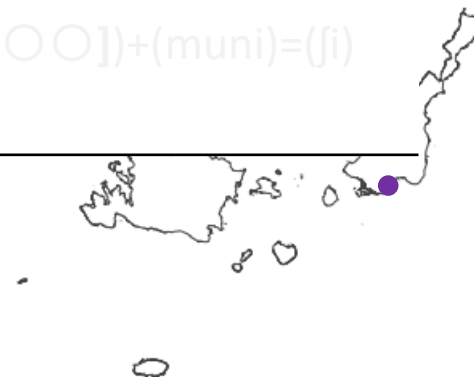
□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

大浜のアクセント体系

型	1PW	2PW	3PW
a型	(○○]○) (○○]○=nu)	(○○]○)=(kara)	(○○]○)+(muni)=(ji)
b型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○)=(kara)	(○○○)+(muni)=(ji)
c型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○])=(kara)	(○○○])+(muni)=(ji)
c型(複)		(○○○])+(muni)	

1. 接語により音調交替



3.1 共通特徴

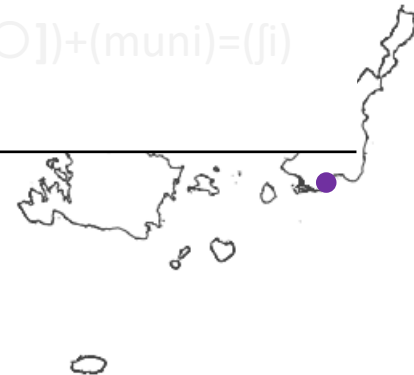
□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

大浜のアクセント体系

型	1PW	2PW	3PW
a型	(○○]○) (○○]○=nu)	(○○]○)=(kara)	(○○]○)+(muni)=(ji)
b型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○)=(kara)	(○○○)+(muni)=(ji)
c型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○])=(kara)	(○○○])+(muni)=(ji)
c型(複)		(○○○])+(muni)	

2. 単純名詞+長い接語は
複合語に準じる



3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する

大浜のアクセント体系

型	1PW	2PW	3PW
a型	(○○]○) (○○]○=nu)	(○○]○)=(kara)	(○○]○)+(muni)= (ji)
b型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○)=(kara)	(○○○)+(muni])=(ji)
c型	(○○○) (○○○=nu)	(○○○])=(kara)	(○○○])+(muni)=(ji)

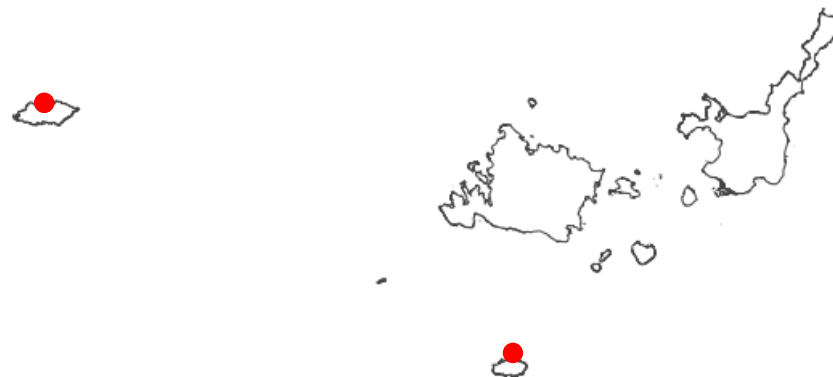
3. 位置による対立



3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する
=> ! **波照間**と**与那国**は韻律語がないとされている(中澤2023)



3.1 共通特徴

□ 共通特徴

- 殆どの方言は対応する少なくとも3つのアクセント型を区別する
(波照間・白保は除くが、波照間は後述)
- 殆どの方言は「韻律語」が数えの単位として機能する
=> ! **波照間**と**与那国**は韻律語がないとされている(中澤2023)
- 各アクセント型の解釈は(抽象的レベルにおいて)同じ

型	ピッチ変動※	位置
a型	無し	-
b型	有り	2番目のPW
c型		1番目のPW

※位置の対立に関わる弁別変動



3.2 韻律体系の分類

□ 韻律体系の分類

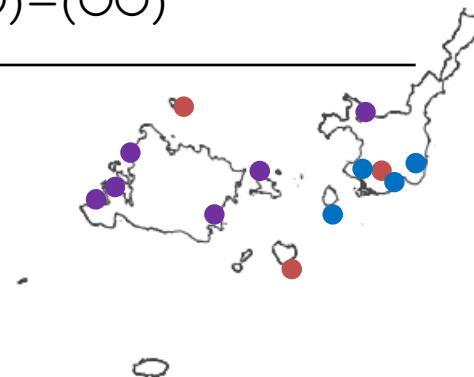
- ピッチの変動方向(上昇か下降)と韻律語内の実現位置(末尾か次末)の変数の値により、3つのタイプに分類

3.2 韻律体系の分類

□ 韻律体系の分類

- ピッチの変動方向 (上昇か下降) と 韻律語内の実現位置 (末尾か次末) の変数の値により、3つのタイプに分類

タイプ	変動方向	PW内位置	c型実現
石垣タイプ	下降	末尾	(○○○])=(○○)
黒島タイプ	下降	次末	(○○] ○)=(○○)
小浜タイプ	上昇	次末	(○○[○)=(○○)

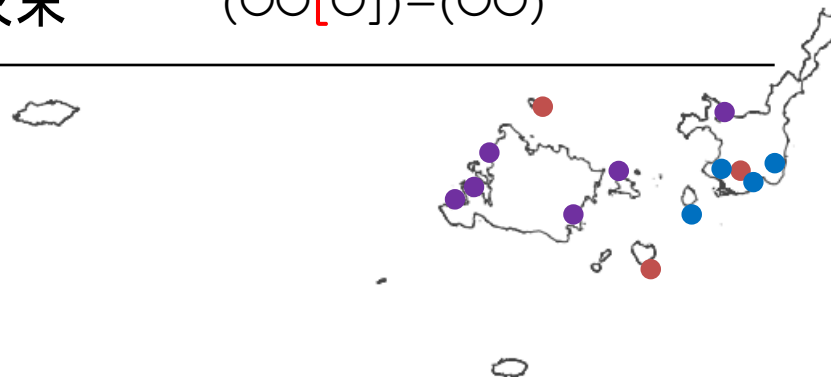


3.2 韻律体系の分類

□ 韻律体系の分類

- ピッチの変動方向 (上昇か下降) と 韻律語内の実現位置 (末尾か次末) の変数の値により、3つのタイプに分類

タイプ	変動方向	PW内位置	c型実現
石垣タイプ	下降	末尾	(○○○])=(○○)
黒島タイプ	下降	次末	(○[○]○)=(○○)
小浜タイプ	上昇	次末	(○○[○])=(○○)



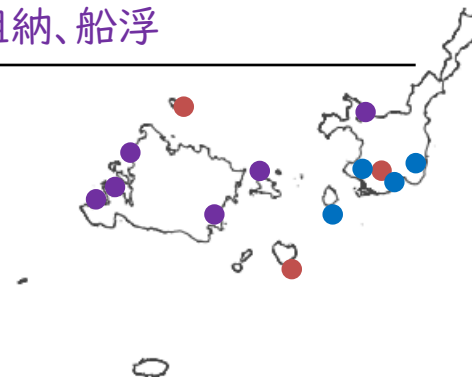
3.2 韻律体系の分類

□ 韻律体系の分類

- ピッチの変動方向(上昇か下降)と韻律語内の実現位置(末尾か次末)の変数の値により、3つのタイプに分類

タイプ	変動方向	PW内位置	方言
石垣タイプ	下降	末尾	四箇、大浜、宮良、竹富
黒島タイプ※	下降	次末	黒島、鳩間、(真栄里)
小浜タイプ うち変種	上昇	次末	小浜、古見、川平、網取 千立、祖納、船浮

※鳩間(1703)と真栄里(1732)は黒島からの寄百姓を受けている村で、他の特徴からしても明らかに同系統の方言である



3.3 石垣タイプ

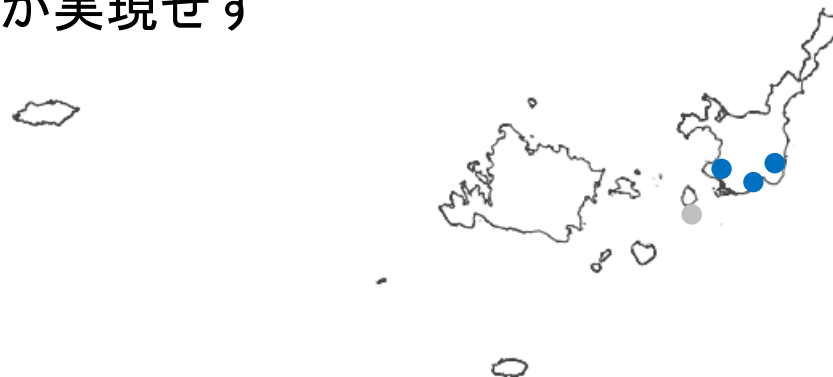
変動方向 PW内位置 方言

下降 末尾 四箇、大浜、宮良、竹富

□ 四箇サブタイプ

	a型	b型	c型
1PW	(○○]○) (○○]○=nu)	(○○○) (○○○=nu)	(○○○) (○○○=nu)
2PW	(○○]○)=(kara) (○○]○)+(muni)	(○○○)=(kara) (○○○)+(muni)	(○○○])=(kara) (○○○])+(muni)
3PW	(○○]○)+(muni)=(ji)	(○○○)+(muni])=(ji)	(○○○])+(muni)=(ji)

- a型は下降調
- 十分なPW数がないと、ピッチ変動が実現せず
(c型・2PW～、b型・3PW～)
- A/BC中和(1PW)



3.3 石垣タイプ

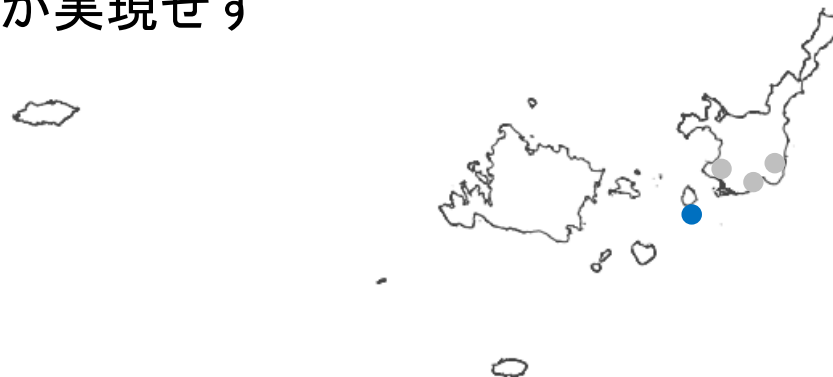
変動方向 PW内位置 方言

下降 末尾 四箇、大浜、宮良、竹富

□ 竹富サブタイプ

	a型	b型	c型
1PW	(O[OO]) (O[OO]=nu)	-	(O[O!O]) (O[O!O]=nu)
2PW	(O[OO])=(hara) (O[OO])+(hitu)	- (O[O!O])+(hitu)	(O[O!O])=(hara) (O[O!O])+(hitu)
3PW	(O[OO])+(hitu)=(hara)	(O[O!O])+(hitu)=(hara)	(O[O!O])+(hitu)=(hara)

- a型は平板
- 十分なPW数がないと、ピッチ変動が実現せず
(c型・2PW～、b型・3PW～)
- 単純名詞はA/BC合流



3.3 黒島タイプ

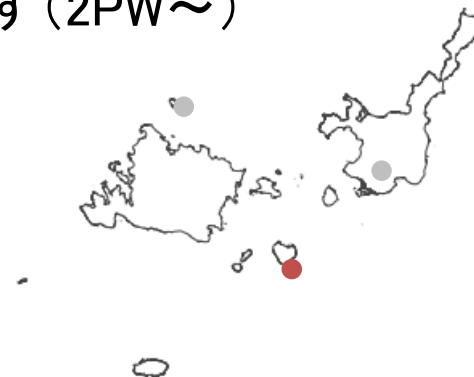
変動方向 PW内位置 方言

下降 次末 黒島、鳩間、(真栄里)

黒島

	a型	b型	c型
1PW	(○[○○]) (○[○○=nu])	(○[○○]) (○[○○=nu])	(○[○]○) (○[○○]=nu)
2PW	(○[○○])=(hara=du) (○[○○])+(pusu) (○[○○])+(pusu=nu)	(○[○○])=(hara=]du) (○[○○])+(pusu) (○[○○])+(pusu]=nu)	(○[○]○)=(hara=du) (○[○]○)+(pusu) (○[○]○)+(pusu=nu)
3PW	(○[○○])+(puso)=(hora)	(○[○○])+(puso)=(hora)	(○[○]○)+(puso)=(hora)

- a型は平板
- 十分なPW数がないと、b型のピッチ変動が実現せず(2PW~)
- AB/C中和だが、ほぼ合流(五十嵐ら2024)
- PW内のピッチ下降の実現位置に関するルール
c型:]○○ ~ ○[○]=nu (五十嵐ら2024)
- TBUは音節



3.3 黒島タイプ

変動方向 PW内位置 方言

下降

次末

黒島、鳩間、(真栄里)

□ 鳩間(■は予測形)

	a型	b型	c型
1PW	(○[○○]) (○[○○=nu])	(○[○]○) (○[○○]=nu)	(○[○]○) (○[○○]=nu)
2PW	(○[○○=V](ra)) (○[○○]+(pusu)) (○[○○]+(pusu=nu))	(○[○○=V])(ra) (○[○○]+(pusu)) (○[○○]+(pusu)=nu)	(○[○]○=V)(ra) (○[○]○)+(pusu) (○[○]○)+(pusu=nu)
3PW	(○[○○]+(puso=o)(ra))	(○[○○]+(puso=o)(ra))	(○[○]○)+(puso=o)(ra)

- a型は平板
- ピッチ変動が常に実現
- A/BC中和
- PW内のピッチ下降の実現位置に関するルール

c型:]○○ ~ ○[○]=nu (ローレンス1997a)、セリック2024)

- TBUは音節



3.3 黒島タイプ

変動方向	PW内位置	方言
------	-------	----

下降	次末	黒島、鳩間、(真栄里)
----	----	-------------

□ 黒島・鳩間の中和パターン

- 黒島はb型の下降が実現しないAB/C中和
- 鳩間はb型の下降が実現するA/BC中和

⇒ 祖語において両方の中和パターンを再建する必要があり、これは、現代の多良間や水納と同じ



3.3 小浜タイプ

変動方向 PW内位置 方言

上昇

次末

小浜、古見、川平、網取
干立、祖納、船浮

□ 小浜サブタイプ I

	a型	b型	c型
1PW	(O]O) (O[O]=nu)	(O]O) (O[O]=nu)	(O[O) (OO=[nu)
2PW	(O[O])=(kara) (O[O]O)+(muni)	(OO)=(ka[ra) (OOO)+(mu[ni)	(O[O])=(kara) (OO[O])+(muni)

- a型は下降調
- 十分なPW数がないと、b型のピッチ変動が実現せず(2PW~)
- AB/C中和(1PW)
- TBUは音節



3.3 小浜タイプ

変動方向 PW内位置 方言

上昇

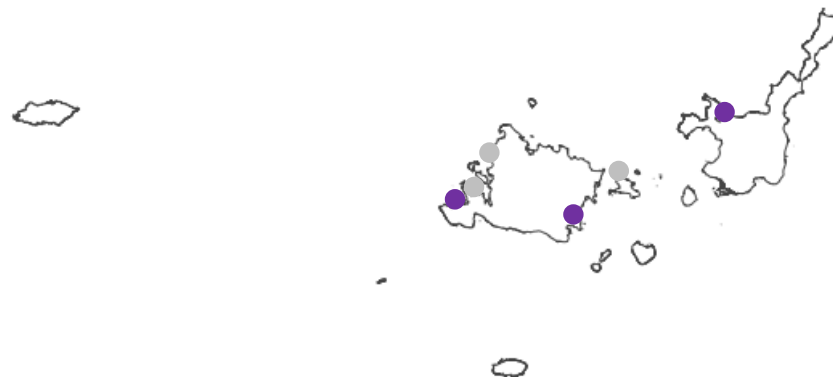
次末

小浜、古見、川平、網取
千立、祖納、船浮

□ 小浜サブタイプⅡ（網取）

	a型	b型	c型
1PW	(○○]○) (○○○]=nu)	-	(○○[○) (○○○=[nu)
2PW	(○[○]○)=(kara) (○[○]○)+(muni)	-	(○○[○])=(kara) (○○[○])+(muni)

- a型は下降調
- 単純名詞はBC合流か、BC合流寸前（古見、その場合、常にピッチ変動が実現し、A/BC中和体系）
- TBUは音節
- 古見は石垣タイプに移行か？



3.3 小浜タイプ

□ 小浜変種(船浮)

変動方向 PW内位置 方言

上昇

次末

小浜、古見、川平、網取
干立、祖納、船浮

	a型	b型	c型	固定型
1PW	(○○]○) (○○]○=nu)	-	(○○[○) (○○○=[nu)	(○[○]○) (○[○]○=nu)
2PW	(○○○)=([ra) (○○]○)+(muni)	-	(○○[○])=(ra) (○○[○])=(muni)	(○[○]○)=(%ra) (○[○]○)+(○...○)

- 船浮、祖納、干立
- a型は下降調(船浮)か低平(祖納、干立)
- 単純名詞はBC合流
- 「固定型」の新たなアクセント型
- TBUは音節



3.3 小浜タイプ

変動方向 PW内位置 方言

上昇

次末

小浜、古見、川平、網取
干立、祖納、船浮

□ 小浜変種(船浮)

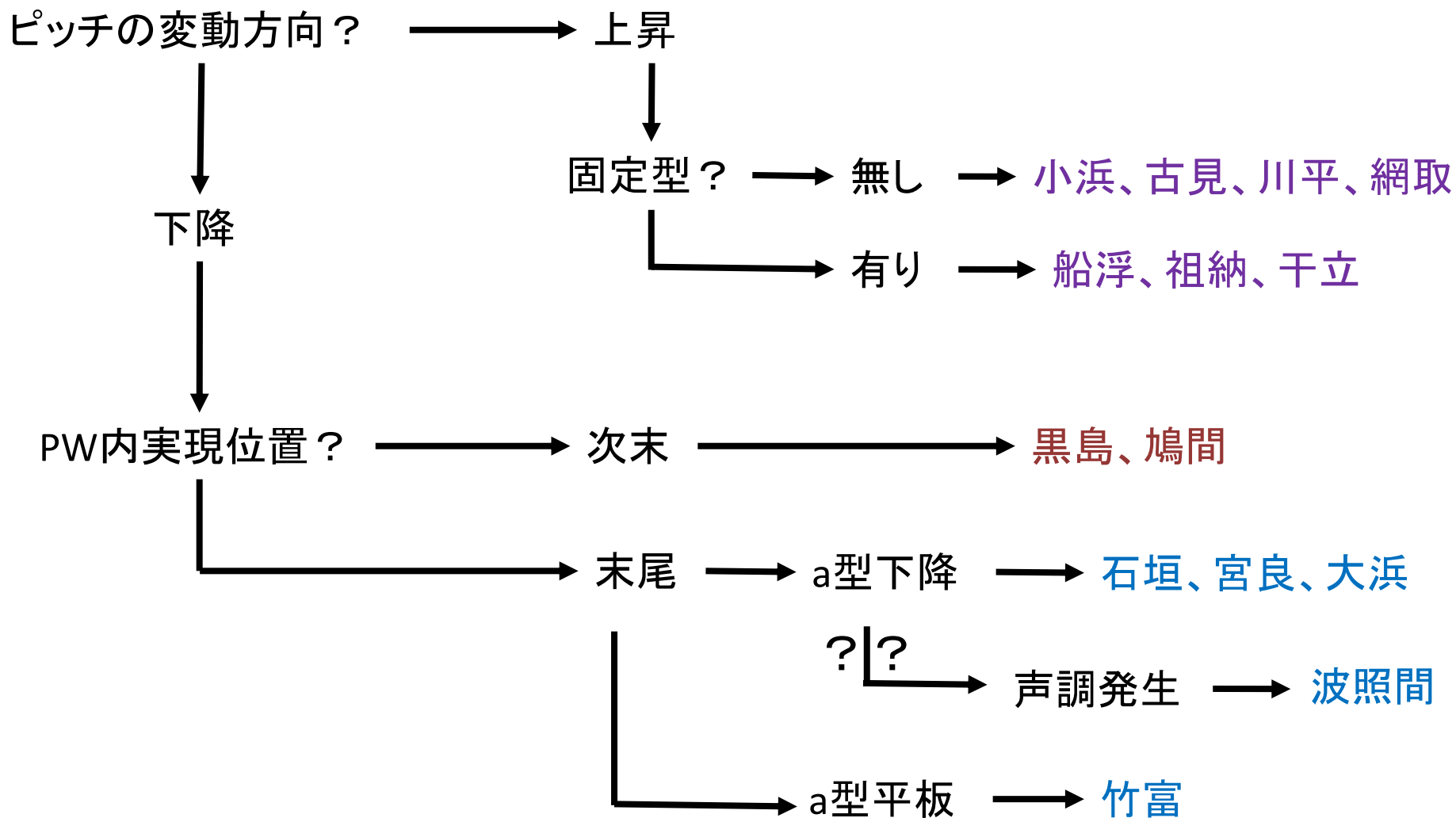
	a型	b型	c型	固定型
1PW	(○○]○) (○○]○=nu)	-	(○○[○) (○○○=[nu)	(○[○]○) (○[○]○=nu)
2PW	(○○○)=([ra) (○○]○)+(muni)	-	(○○[○])=(ra) (○○[○])=(muni)	(○[○]○)=(%ra) (○[○]○)+(○...○)

固定型所属語: pafi 「箸」、 pari 「針」、 nufi 「主」、 pooki 「箒」、 amatfi 「髪」、
 fipari 「小便」、 garafi 「鳥」、 barapi 「へゴ」、 abufi 「畦」、 jootfi 「簪」、
 panafi 「話」、 katetfi 「雲丹の一種」、 igeji 「角又」 ...

通時的に語末母音が *i に遡る



3.4 まとめ



3.5 その他のバリエーション

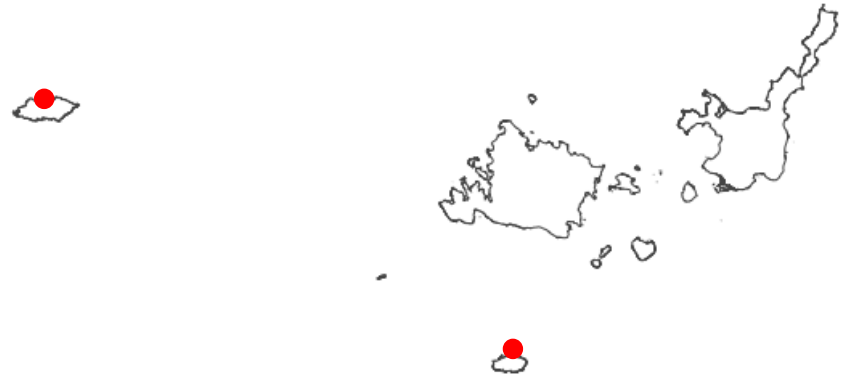
タイプ	方言	中和・合流	a型
石垣タイプ	四箇	A/BC	下降調
	大浜	A/BC	下降調
	宮良	A/BC	下降調
	竹富	A/BC合流	平板
黒島タイプ	黒島	AB/C	平板
	鳩間	A/BC	平板
小浜タイプ	小浜	AB/C	下降調
	古見	A/BC	下降調
	川平	A/BC合流?	下降調
	網取	A/BC合流	下降調
	船浮	A/BC合流	下降調
	祖納	A/BC合流	低平
	干立	A/BC合流	低平
その他	波照間	A/BC合流	下降調
	与那国	(かつて?)非中和	平板



3.6 与那国と波照間の位置付け

□ 韻律語について

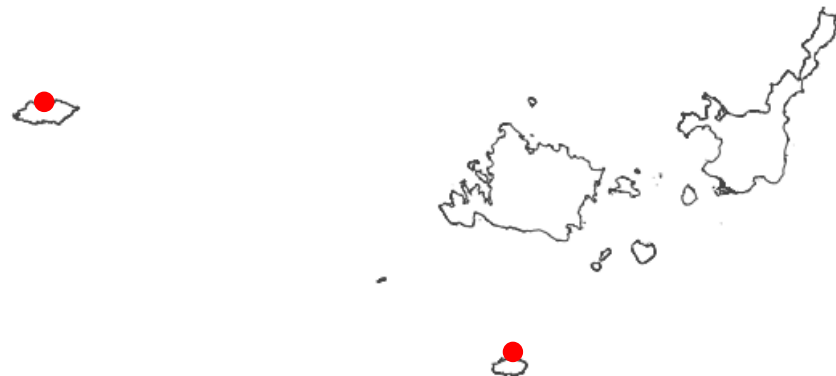
- **与那国**と**波照間**は韻律語が機能していない体系とされているが、その根拠が一切公表されていないことに注意



3.6 与那国と波照間の位置付け

□ 韻律語について

- **与那国**と**波照間**は韻律語が機能していない体系とされているが、その根拠が一切公表されていないことに注意
- 逆に、(少なくとも通時的に)韻律語の痕跡と思わせる事実がある



3.6 与那国と波照間の位置付け

□ 韻律語について

□ **与那国**と**波照間**は韻律語が機能していない体系とされているが、その根拠が一切公表されていないことに注意

□ 逆に、(少なくとも通時的に)韻律語の痕跡と思わせる事実がある

⇒ 説明できない前部要素がC系列の複合語の実現

表7 「高低」で実現する複合語 (一部)

複合語		X		Y	
ʼin ¹ + duri	「海鳥」	*in ¹³	「海」	turi ¹	「鳥」
ʼainaa ¹ + joi	「結婚式」	ainaa ¹	「花嫁」	joi ¹	「祝い」
ʼsɨkama ¹ + buci	「宵の明星」	sɨkama ¹	「仕事」 ⁴	pɨci ¹	「星」
ʼsinzi ¹ + fɨciri	「煎じ薬」	sinzirun ¹	「煎じる」	fɨciri ¹	「薬」
ʼtaborari ¹ + munu	「頂き物」	taboorarin ¹	「頂く」	munu ¹	「物」

波照間: セリックら(2023)より

形態素境界下降

3.6 与那国と波照間の位置付け

□ 韻律語について

- 与那国と波照間は韻律語が機能していない体系とされているが、その根拠が一切公表されていないことに注意
- 逆に、(少なくとも通時的に)韻律語の痕跡と思わせる事実がある
=>説明できない前部要素がC系列の複合語の実現

表 1: 2 要素から成る複合語アクセント

前部要素 \ 後部要素	A 型	B 型	C 型
A 型	A	A	C, A, B
B 型	B	B	B
C 型	C+A, C+X , B	C+B , B	C+C, C+X , B

与那国: 中澤(2018)より

形態素境界下降

3.6 与那国と波照間の位置付け

□ 韻律語について

□ **与那国**と**波照間**は韻律語が機能していない体系とされているが、その根拠が一切公表されていないことに注意

□ 逆に、(少なくとも通時的に)韻律語の痕跡と思わせる事実がある

⇒説明できない前部要素がc系列の複合語の実現

□ 波照間 in]+duri「海鳥」、与那国 u^hbuni^hhat'agi「大根畑」などは石垣タイプのc型に対応している

□ これは偶然ではなくて、通時的に意味のある対応であるという仮説を提案する

3.6 与那国と波照間の位置付け

□ 韻律語について

□ **与那国**と**波照間**は韻律語が機能していない体系とされているが、その根拠が一切公表されていないことに注意

□ 逆に、(少なくとも通時的に)韻律語の痕跡と思わせる事実がある
=>説明できない前部要素がC系列の複合語の実現

□ 波照間では、BC対応型は語頭分節音の有声性によって2つのアクセント型(平進型、上昇型)に分裂(麻生、小川2016)

➤ ただし、実際は、韻律語を形成する助詞を試していないため、A、B1、B2、C1、C2の体系の可能性が残されている

➤ なお、複合語では、B>Cではなく、C>Bの可能性が指摘できよう(Cf. 鳩間方言の複合語における傾向(セリック2023))

参考文献

- 麻生玲子・小川晋史 (2016)「南琉球八重山語波照間方言の三型アクセント」『言語研究』150: 87-115.
- セリック・ケナン (2020)「南琉球宮古語水納島方言のアクセント体系と基礎語彙」『琉球の方言』44, 243-281.
- セリック・ケナン (2022)「下地皆愛方言のアクセント体系に関する予備的報告」『言語記述論集』13, 215-290.
- セリック・ケナン (2023)「鳩間方言の韻律体系の見直し: アクセント型の対立数などを巡って」第258回 NINJAL サロン 2023年10月7日、発表資料.
- セリック・ケナン (2024)「調査速報: 八重山語竹富方言の三型アクセント体系」第回 NINJAL サロン 2024年1月23日、発表資料.
- セリック・ケナン、麻生玲子 (2023a)「八重山語小浜方言の三型のアクセント体系について」令和5年度第1回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会 2023年6月10日、発表資料.
- セリック・ケナン、麻生玲子 (2023b)「南琉球八重山語における三型アクセント体系のさらなる報告」『日本言語学会第167回大会予稿集』520-525.
- セリック・ケナン、麻生玲子、中澤光平 (2023)「南琉球八重山語波照間方言辞典に関する中間報告」『言語記述論集』15: 193-358.
- 五十嵐陽介 (2015)「南琉球宮古語多良間方言のアクセント型の記述」『比較日本文学化学研究』8: 1-42.
- 五十嵐陽介 (2016a)「南琉球宮古語池間方言・多良間方言の韻律構造」『言語研究』150: 33-57.
- 五十嵐陽介 (2016b)「アクセント型の対応に基づいて日琉祖語を再建するための語彙リスト「日琉語類別語彙」」『日本語学会2016年度春季大会予稿集』233-238.
- 五十嵐陽介 (2019)「琉球宮古語伊良部佐和田方言のアクセント体系は三型あるいは二型であって一型ではない」(一橋大学五十嵐ゼミ令和元年夏期「終日ゼミ」発表原稿) 1-14.
- 五十嵐陽介・田窪行則・林由華・ペラルル、トマ・久保智之 (2012)「琉球宮古語の池間方言のアクセント体系は三型であって二型ではない」『音声研究』16(1): 134-148.
- 五十嵐陽介、荻野千砂子、セリック・ケナン (2024)「南琉球八重山語黒島方言の単純名詞のアクセント型の数は2か3か」科研費成果発表会発表原稿 (2024年2月2日: 北星学園大学第4会議室).
- 久野マリ子 (1990)「第3章 アクセント」国学院大学日本文化研究所(編)『琉球竹富方言の方言』77-116、国学院大学日本文化研究所.
- 平山輝男・大島一郎・中本正智 (1967)『琉球先島方言の総合的研究』東京: 明治書院.
- ローレンス・ウエイン (1997a)「鳩間方言のアクセント—名詞」沖縄文化協会(編)『沖縄文化』32(1): 88-64.
- ローレンス・ウエイン (1997b)「鳩間方言のアクセント—数詞/助数詞」『沖縄芸術の科学』9: 1-21.
- ローレンス・ウエイン (1999)「竹富島方言のa/eについて」『琉球の方言』23: 165-179.
- ローレンス・ウエイン (2000)「八重山方言の区画について」石垣繁 (編)『宮良當壮記念論集』547-559. 沖縄: 宮良當壮生誕百年記念事業期成会.
- ローレンス・ウエイン (2013)「竹富島方言アクセントと「系列別語彙」: 附 竹富島方言版「北風と太陽」」『琉球の方言』37: 1-24.
- ローレンス・ウエイン (2019)「竹富島方言アクセント(2)」『琉球の方言』43: 97-129.
- 前新透 (2011)『竹富方言辞典』南山社.
- 松森晶子 (2000a)「琉球の多型アクセント体系についての一考察—琉球祖語における類別語彙3拍語の合流の仕方—」『国語学』51(1): 93-108.
- 松森晶子 (2000b)「琉球アクセント調査のための類別語彙の開発—沖永良部島の調査から」『音声研究』4(1): 61-71.
- 松森晶子 (2010)「多良間島の3型アクセントと『系列別語彙』」上野善道 (監)『日本語研究の12章』490-503. 東京: 明治書院.
- 松森晶子 (2013)「宮古島における3型アクセント体系の発見: 与那覇方言の場合」『国立国語研究所論集』6: 67-92.
- 松森晶子 (2015)「南琉球の三型アクセント体系: その韻律単位に関する考察」『日本女子大学紀要文学部』64: 55-92.
- 松森晶子 (2016)「八重山諸島黒島方言アクセントの仕組み: その韻律範疇PwDと下がり目の出現条件」『言語研究』150: 59-85.
- Matsumori, Akiko (2019) "Prosodic Unit, Recursive Structure, and Nature of Accent in Miyako Ryukyuan". The Linguistic Review. 36(1), 51-83.
- 中川奈津子・セリックケナン (2019)「琉球八重山白保方言のアクセント体系は三型であって、二型ではない」『日本語学会2019年度春季大会予稿集』89-96.
- 中澤光平 (2018)「与那国方言の複合語アクセントと音韻解釈」『第32回日本音声学全国大会予稿集』132-137.
- 中澤光平 (2023)『宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開: その韻律単位と類型』へのコメント」第167回日本言語学会大会、発表資料.
- 荻野千砂子、セリック・ケナン、五十嵐陽介 (調査ノートa) 船浮方言調査ノート
- 荻野千砂子、セリック・ケナン、五十嵐陽介 (調査ノートb) 川平方言調査ノート
- 小川晋史 (2011)「南琉球八重山竹富島方言のアクセントとイントネーションについて」第6回音韻論フェスタ研究会発表資料.
- 占部由子 (2018)「南琉球八重山語西表島船浮方言の文法概説」九州大学修士論文

謝辞

- 調査にご協力いただいた方々およびコーディネーターの松原英男氏に感謝申し上げます。
- この研究は、JSPS科研費 JP22KF0370, JP21H00353, JP20H01259, JP23K12167, JP19H05353, JP18K12390, 国立国語研究所の共同研究プロジェクト「実証的な理論・対照言語学の促進」プロジェクト(プロジェクトリーダー:浅原正幸)のサブプロジェクト「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」(プロジェクトリーダー:五十嵐陽介), 「消滅危機言語の保存研究」(プロジェクトリーダー:山田真寛)の研究成果である。